

会 報

会費振込先 第一勧銀川崎支店東北大学ワングルOB会 普通口座(370-1881604)

TUWV 47 20周年記念キャンプ

日時：1992.5.23～24 場所：丹沢 水無川上流（倉見山荘横）

参加者：秋田、園部、竹内、仁藤、芳文、元昭（記）とその息子

5月23日

午前中の天気 晴れ。5月の日差しが心地よい。
午後1時、元昭ならびにその息子がテン場に到着。
午後4時少し前、秋田、竹内、仁藤、芳文が待ち合わせ場所に到着。4時半ごろテン場に到着。

天気、曇り。風がでてくる。

秋田、元昭が食料の買い出しに。

竹内、仁藤、芳文が火を焚き、飯盒で飯をたく。

5時半ごろ、食料買い出し隊、テン場に到着。

飯盒の飯は、かなり焦げている模様。

園部があちこちを巡ったあげく、到着。

麦酒で乾杯した後、各地のつまみを肴に、調理（焼肉）に入る。

焚火が快調に燃え、肉を焼き始めたところ、

突然、大粒の雨。

寒冷前線が通過しているため、雨激しく降る。

仁藤、必死に肉を焼く。見事に完成。

あわてて張ったタープの中で夕食。

秋田が持ち込んだ特別な日本酒を筆頭に、各地からのうまい酒が並ぶ。

仁藤が焼いた肉をつまみながら、ぐんぐん酔って行く。

そのうち、雨も上がり、再び焚火の周りに集まる。

（このあたりから、筆者の時間感覚マヒしはじめる）

芳文、一旦消える（仮眠の体勢に入った模様）。

酔いが回り始め、ろれつがまわらなくなる。

いろいろな話しをしたり、なつかしい唄を唄ったようだが、あまりよく覚えていない。

ハーモニカを吹いたような気もする。

芳文、多量の流木とともに、復帰。

焚火が快調に燃え、胃の中も燃えてくる。

仁藤、焚火の横に静かに横たわる。

（その後2時まで、そのままの姿勢で熟睡）

元昭、続いてダウン。したがって、この後はまるで不明。

また時刻も完全に不明。

翌朝、聞いたところによると、2時まで、焚火が燃え続け、園部、秋田、竹内、そして仮眠から復帰した芳文の4名が、語りつづけたらしい。

5月24日

朝方、土砂降りの雨の音で眼をさます。

激しい雨ながら、最近の装備は優秀で、乾いて温かく、いつまでも眠れる。

8時半ごろ、1名が起きだし、しばらくしてから全員が起床する。

明け方の風雨、厳しかったらしく、タープが倒れ、食料などが完全に雨ざらし。

天気、快方に向かう。

登山靴を履いてきた者、数名。

昨日の言質と異なり、山に向かうものなし。

再び、焚火を作りて、その周りにたたずむ。

12時ごろ、再会を約して、解散。空はすっかり晴れ渡っている。会合費用はひとりあたり約3000円であった。

主催者の印象・思ったこと

本当に久しぶりにTUWVのメンバーとあったような気がする。メンバーの結婚式で、何度か顔を会わせてはいるが、それも大分前のことであり、またスーツに身をまといホテルの宴会場では、どうもワングルらしくなかった。

今回は、久しぶりにスーツ以外の服装で会った。

テントを張った。

焚火を作った。

飯を炊いた。

シェラフで飲んだ。

やっと、ワングルの顔があらわれたと感じた。

それにしても、47年卒メンバーは、どうして変わらないのだろう。

秋田は相変わらず自己管理に厳しく、マラソンに挑戦している。

園部は精力的に谷筋に入り込み、イワナを追っている。

芳文は万事ユックリズム。

竹内、仁藤は川内に住んでいた時と何が違うのかよくわからない。

まるっきり、20年前の印象と同じなのである。

卒業してからの20年、世の中の厳しさ・時代の流れはこの人たちに何の影響も与えなかったのだろうか。

といいながら、俺も変わらないといわれた。

長男が大部分の47年組は、今後ものんびりと何も変わらずに、また集まることでしよう。

今回の集合で、次回に対する要望が固まりました。

開催に対する希望は下記のとおりです。順序は希望の大きさの順。

①やはり今度は仙台の近くで実施したい

②やはり焚火が出来るところがいい

③夜になって、かならずダウンする（焚火のそばで眠る）ものがあるので、寝るところと焚火は出来るだけ近いほうがよい。

④晩飯は汁系統のものがよい。できれば大きな鍋で、煮物（芋煮会のような）をしたい

⑤カレーは良くない

⑥季節は秋など、どうであろうか

アルプス・スキー三昧

佐藤 良子（44年卒）

目が覚めるとホテルの窓から明るい光が射しこんでいました。「もしや・・・」と思ってカーテンを開けると、目の前にアイガーの崖壁が圧倒的な迫力で迫っています。寒いのも忘れ、ベランダに出てビデオを回しました。

今年の4月、主人と念願のヨーロッパ旅行をしました。山の好きな私達は、先ずスイスのアルプスへ向かいました。はじめ、グリンデルワルトに4泊し、毎日登山電車で登っては、アイガーやユングフラウを見ながらスキーをしました。アイガー北壁は手を伸ばせば届くところにあります。5時にリフトが止っても、太陽はまだまだ頭の上にあります。のんびりと北壁を眺めていると、時間が止った感じです。貸スキー屋の人のいいおじいさんが、「グリンデルワルトの人は、みんな Mr. Yukou Maki の友達なんだよ」と言っていました。

次に、ツエルマットに3泊し、イタリア国境のマッターホルンでスキーをしました。本などでよく見るあのマッターホルンがすぐ目の前にそびえているのです。イースターホリデーということもあって、ツエルマットにはヨーロッパ中からスキー客が集まっていました。特にドイツ語がよく耳にはいってきました。ゴンドラは行列待ちでぎゅうぎゅうずめでしたが、上にいくとゲレンデのスケールがあまりにも雄大なので、人はまばらになり、人とぶつかる心配もなくのびのび滑れました。ゴンドラの終点のクラインマッターホルンは、標高が3820mもあり、スイス、イタリアの峰峰はもちろんのこと、遠くフランス国境の峰まで一望のもとです。ここはもうイタリア国境で、マッターホルンの南壁が大きく見えます。イタリア側のロッジで、上半身裸で日光浴している人達を眺めながら昼食をとりました。もちろん金はスイスフランもOKです。スキー場で感心したことは、みんな非常に上手で、転ぶ人など誰一人として居ないことと、老夫婦が結構来ており、彼らが大変上手で、ダイナミックな滑りをしていることです。年老いても仲睦まじく、颯爽とアルプスにシュプールを描く姿がとても印象的でした。ヨーロッパ流とシャレコミ、ロッジの外のイスにのんびり座って、今度は北壁を眺め、オチャシながらのスキーを楽しみました。最後にパリで美術館めぐりを楽しみ、2週間のヨーロッパの旅を終えました。



ユングフラウを背に

あの人は今・・・近況報告

コンニチハ

この4月、4年半の東京での単身赴任生活を脱して大阪へ戻ってきました。2月末に同期の転任者が多くの人に送別会をやってもうしばらく過せ、本当に有難うございました。それにしても、この向、ワイルド・マンションだつ、軽装帯を脱ぎ、東京周辺の尾瀬や、奥秩父、奥多摩等、2〜3日の山に行つてやろうと思つていたので、結局どこへも行かずじまつ。成りかゝる意中の55歳に嫌になつます。大阪からは家族と毎週、ビアの冬地へ、4日泊位、初詣では、大阪で一歩高い雪(?)の金剛山へ、他に琵琶湖西の比叡山で結構出掛けているのですか。---
 や、は、り、心、掛、け、次、第、で、予、備、本、子、離、れ、て、皆、さん、と、山、行、を、共、に、した、い、も、の、で、す、よ、う、い、く、
 大阪に戻つてまた忙しさに取り紛れてこの人とふ会いしていませんが、又会いましょう。

昭和42年卒 泉村文司

一九七一年から二二年間の仙台での生活に別れを告げ、来年四月から九州大学に勤務することになりました。鳥海・早池峠など東北の山に登り残した山は少なくあつませんが、今度は九重・阿蘇へと中年登山を楽しみたいと思つておろす。WV副部長の仕事を代行の人を探しています。

一月九日
 (二期)
 直江真一
 敬具

この日はたしつたります。

昨秋、東京に転勤したのが、10何年ぶりに新年会に出ました。会費を納めていなかったのが、11月(なつ)に利上げが飲み出すと一身に昔のワイワイ仲間に戻り、楽しい時間を過ごさせて頂きました。幹事に感謝。

また秋田に居た時は山が近くとはいい、山菜とりとまのこヒリしかしてない事でした。東京は交通の便が良さそうなので、その内行つてみようか(?)と思つて11月(なつ)の如です。

最近家を新築し引越しましたので不知せします。

〒274 船橋市西習志野 2-2-15
 Tel 0474-69-2750 前田吉房

大阪から東京へ移つて一年半、修と東京の欧米、大阪はアジアと言われ出ています。大感して、
 います。
 現夜川崎市で内科医として勤務中、診療に供手して、つたが、結構、利源があり充実しています。今夏、北アルプスにも登山しました。東京周辺の永世予定です。片袋とも遠くお願ひ申し上げます。

田中原利

先週、仕事でワシントンDCに滞在し、近くのアナポリスへ蟹を喰いに行きました。有名な海軍兵学校のある海辺の町です。蟹も美味かったのですが、あの辺りの普通の住宅は敷地千坪、鬱蒼とした木立の中に瀟洒なコテージが建っているという風情でまことに羨ましい限り。それに引き換え昨今の我らが伝蔵荘は八ヶ岳山中と言うのに時節はずれの建築ブーム。軒先にまで隣家が接するようになり、隣の二階からこちらの風呂場が覗けてしまう体たらく。日本のリゾート環境は米国の一般住宅地にも及ばぬ事を実感。

来週は恒例の伝蔵荘秋の例会。みんなで茸刈りとゴルフをやる予定です。もう誰一人山に登ろうと言う奴はいません。

それでもまだまだ静かな山小屋です。来春GWの春の例会にはOB諸氏の参加をお待ちします。

後藤龍男（39年）

皆さん、お元気ですか。

地方都市でもバブル崩壊の影響がありこの夏は少し暇だったが、山には登らずじまい。

仕事で近くのゴルフ場予定地の低い山に幾日か登っただけ。

体力も気力も20才とはいかないが、学生時代からの登山靴を履くとなんとなく元気がででくるような気持ちになる。

この葉書を書き終えたら、ひさしぶりに蔵王の青い空でも想いながら、ウイスキーで乾杯としますか。

平成4年10月17日

群馬県桐生市東6-5-40

五十嵐惇和

われわれ47年組も、卒業20周年を迎え、厄年を過ぎました。

不惑の歳を迎えたメンバーで、久しぶりに焚火を囲みました。

5月23日、24日に、丹沢で実施したキャンプの報告書、送付します。よろしくご査収ください。

20年のプランクがあっても、焚火を囲み、テントを張ると、昔の顔にもどります。卒業後の20年の歳月は無かったも同様でした。

メンバーは、20年前の印象となんにも変わっていませんでした。

同じペースで歳をとっているのか、

それとも、昔の仲間と焚火を囲むとタイムスリップするのか、

よくわかりませんが、不思議な体験でした。

上野発の夜行列車ならぬ仙台発朝一番の新幹線で青森にやってきました。七つの雪が降りとか言われる雪国とあって青空を見たのは着任しお世話になり、ありがとうございます。青森では県政全般の仕事になります。いろいろ面白いこと多いところですので、帰ってこいよの声が掛かるまで、こちらの生活を楽しんでみたいと思います。「こっちさ来たら、寄ってけへ」と、まずは津軽語、でごあいさつ申し上げます。

て六日目。ここは犬と猫と、酒屋の多い街です。本社在任中は大変



平成3年4月 渡辺 幸英

河北新報社青森総局 ☎0177-76-2654
自宅〒030 青森市中央3-8-15 シティパレス中央104
☎0177-77-0629



結婚してから名古屋に5年暮らしたのち、なぜか又、生まれ育った仙台に舞戻り、10年が経ちました。この秋主人の実家へ移り、ようやくZDKのアパートから庭つき1戸建に住み換えとなりました。人より10年遅れているねと言いつつ、リビングで"のんびり"しています。

アルバイトで始めた工学部電子の研究室(佐藤研)の秘書もなかなか子どもがで"きない"ので、いつまでも勤めています。もしリクルートでこられてみかけたら声をかけて下さい。

毎夏、2人で北アサハ岳、東北の山等登っていました。この2年はごぶさたしています。洞沢から北穂奥穂へ行った時が暑くて大変でしたけど、楽しい山行でした。在仙なのでワングレルの総会や卒業式には、呆れるくらいよく出席し、部歌と学生歌を唄って帰ります。メッチェン部員も復興おかにみえましたか。数年前で又途絶えてしまいました。やはり好きだった方が良からせむ権力誘って欲しいとOGとしてえらそうに話します。

仙台も巨大な百万都市!となり、12月には光のイベント(けやきに豆電球をくっつけてピカピカさせるだけ)

かNHKの全国放送の話題となる程です。まわりの変化をよそめに、私だけはまだあまり変わりはないと思、ているこの頃です。

(昭50年卒) 才14期 野家裕子(旧須田)

昭和40年卒業の関川です。学校を出てから就職したエッソ石油を4年前に退職し、現在八王子にある中小企業に勤務しております。小さな会社の為、いろいろな雑用をこなさなければならず、なかなか休みはおろか、余裕がありません。近くに住んでいる先輩の岡元や同期の緑川氏ともあまり会う機会がなくて残念です。八年前に胃がんを手術し、すっかりやせましたが、その後どういうわけか回復し丸刈りに元気でやっております。そのころより山に行きたい気持ちがつわり、暇をみてあらさら行っています。飯巻、立山、剣、中央、トラス、甲斐駒等です。現在海老名に在んで、いろいろで丹沢にはよく出掛けます。機会があればまたご一緒したいと思っております。

ご様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

関川利男

本当は去年のメッチェン特集号にのせるはずだったのですが、間に合わず、今年になってしまいました。

OBの皆さんいかがお過ごしですか。私は、今年の夏は第二子が誕生し、山とはまったく関係ない生活を送っていましたが、昨年夏は長男も2才になったので、世間で流行のオートキャンプなる物をやってみようと秩父の長瀨に出かけました。

「飯はお父さんに任せろ」との豪語幸いと妻と坊主が遊びに行ってしまうから、ハンゴウにブキを押し当てながら吹き出す湯気の臭いをかいだり、人参やじゃが芋を薄く切ったカレーを煮たりしながら悪戦苦闘、一人学生時代に想いを馳せていました。

食事は石の上にでも腰降ろしてすればいい、夜はろうそくがあれば充分と思っていたら大間違い。まわりは立派なテーブルにパラソル、まばゆいばかりのランタンのオンパレード。わが家だけTUVの雰囲気でしたが、「これが正統派なんだ」との言葉に皆納得。

子供達がもう少し大きくなったら、まず尾瀬に行き、次はあそこに行き、そしていつかは二口小屋にと夢は膨らむばかりです。

埼玉県深谷市櫛引182-34
中21期57卒 坂本 務

新年会のお知らせ

新年会は毎年1月の最終金曜日（最終金曜日と第4金曜日とで少々混乱していましたが、やはり最終金曜日にします。平成5年は1月29日（金）19:00から）、新橋駅のすぐ近くにある新橋亭（しんきょうてい）で行っています。皆さんお誘いの上ご出席下さい。特に、若い人の出席は大歓迎です。会費は10000円位の予定です。年が明けたら、各代の連絡係の方を通じて出欠を調べますので、よろしくお願ひします。

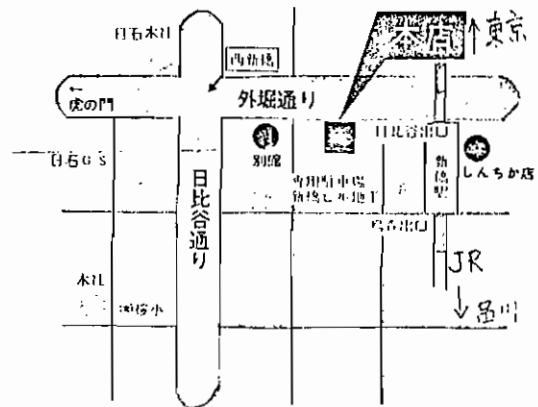
遠くの方でも、東京に出張などで来るような場合には、ぜひ出席して下さい。飛び込み大歓迎です。反対に、出席ということになっているのに、当日欠席される方も結構います。これは本当に幹事泣かせです。予定が変わった時は、早めにご連絡下さい。

問い合わせ、連絡先 佐藤拓哉 Tel 0468-41-8622

平成3年新年会出席者

- (S39) 後藤龍男、佐藤、松木功 (S40)
 島崎賢、緑川学 (S41) 谷正美 (S42)
 安達文夫、恩田達也、加藤邦明、斉藤進、青木祐二
 (S43) 五十嵐惇和、金子清敏、菊谷清
 (S44) 小笠原弘三、佐藤拓哉、濱聡、前田吉彦
 水上俊彦、三原健治、宮下美恵子 (S45)
 石野好昭、伊藤健一、富川正夫、原田博夫、
 桃谷尚安 (S46) 薄木三生、甲斐利春、
 菅原英行、高野秀夫、若佐則雄 (S47)
 秋田修 (S53) 青木周司、宿崎和彦
 (S55) 板橋正之、川島芳之、須々木裕太
 高川正徳 (S56) 阿部享

中国料理 **新橋亭**
 本店 東京都港区新橋2-6-3 〒105
 TEL (03)580-7811
 年中無休 12:00P.M.~9:30P.M.



平成3年1月~12月会計報告（東京口座）

収入

繰越金	595,208
OB会費	26,000
利息	9,877
計	631,085

支出

会報N022号	32,002
三日月氏記念品	8,000
事務通信費	4,230
送金代	618
次年度繰越	586,235
計	631,085

★★ 編集後記 ★★

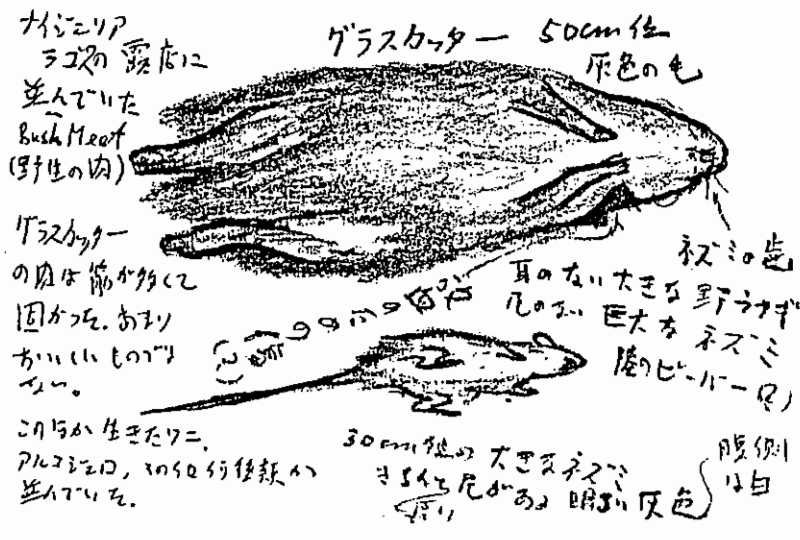
◇会報23号をお届けします。今回は、こちらが原稿をどうしようと悩む前に、同窓会の報告が飛び込んできました。

こういうことは幹事を非常にハッピーにさせてくれます。

◇バックナンバーを希望の方、ご連絡下さい。大昔のもの（当然手書き）もあります。

◇年会費は1000円です。1ページ目の口座に振り込んで下さい。最近、新年会に参加した人から集めているだけという状態が続いていましたが、今年の新年会から集めるのを止めました。皆さん、ご協力お願いいたします。

追伸です



ナイジェリア
エゴの露店に
並んでいた
Bush Meat
(野生の肉)
グラスカッター
の肉は筋が多くて
固くて、あつ
かい(味のワ
ザシ。
この肉を生きたワニ
アフリカ、インドの種類の
並んでる。

初生歯
耳の大きい野ウサギ
尻尾の太いネズミ
腹側
白色

YUICHI O'HARA (40年卒)
21, Rue Barque (40年卒)
75015 PARIS FRANCE
相変りアフリカな莫大の
便が飛んで回っている。
先日はアフリカナイジェリアに行つて
きた(互。一級ホテルの水道の水にも
コーヒーみたいな色の水が出てくると
いう処です。20cm位の大きな
アフリカウサギの肉は、1kgのフリジ
ミートを食べ、毎日250mlの薬を飲
みながら(1ヶ月ほど毎日飲む
けれども)の出現で、その
けいおもしろくて周囲からお水飲っていました。



横浜から春日部に越して一年が過ぎました。
4月から息子が入っているボリースカウトの
手伝いをやっています。月2回はどハイキング
などの活動があり、子供達と一緒に
歩きまわるのが私にとって面白い運動
になっています。

春日部市藤塚二〇七二番八
原田博夫 (45年卒)

OB会報×三編集作業、毎回片寄片探時。
此依頼により、1)姓の近況を報告はす。
昨年7月、静岡市に転勤、身の単身赴任の身。
仕事の方は東京高連道路。維持管理。管内に
トホ火災の有名に、下は日本坂トホをとり、
日交正量の日台、事取の多発に気が付き日あり
地人。皆せん。東京を走る際は、車両距離をとり
短距離に心がけ下す。
毎日、眼界に高士山を眺めつつ、結構体で節かし
心持の心な報告を……
① 春光旧東海道を忠実=たは、2果下17.5kmを歩
企画に参加。日曜日池に5日向かい2完歩。
一日平均3km、宿時、塚次、香多の道中と同ペース。
② 8月中旬、南アフリカ 志川三山、赤石岳徒走に
挑戦、途中途車を利用する干の赤石山行所
ども20年近い下一ツを皆屋の4日肉のアフリカ、
人毛づく、高山野物は満南、"ビランジ"とい
うのは科の美しい花を初知大の赤石
山脈とシエラを新調の赤石山脈に昨今時。

昭和41年 櫻 洋一 刻